法中校長室通信 **へいそう!** R7,2,18

文責：船越　路央

「恋」とは何ですか？

先日、3年生と「辞書クイズ」をしていました。辞書クイズとは、辞書に記載してある「意味」を読んで、相手に言葉（単語）を答えてもらうという、シンプルな遊びですが、実はこれ、奥が深いんです。例えば「右」。

辞書Aには「北を向いて東の方角」と書いてありますし、辞書Bには「大部分の人が、食事のとき箸（はし）を持つ側」と書かれています。また、別の辞書には「この辞書を開いて読む時、偶数ページのある側をいう。」など、表現も多様で、楽しいです。

さて、その遊び中、「恋」はどんな説明がされているかという話になり、見て見ると「男と女が好きになる気持ち」と書かれています。**「ん?」**と疑問の声をあげた生徒Rさん。

「男女間とは限らんへん?　犬でもいいし、ネコでも恋するでしょ?」

確かに。辞書の発行年を確認すると、いずれも1990年代に発行されていました。それから30年以上が過ぎた今日、辞書にはどう書いてあるのでしょう。早速、図書館で見てみたいと思います。

そういえば、昨年度の話。 村内のフードコートで食事をしていると、横に高校生らしき二人組が座りました。比較的大きな声だったので、彼らの話が聞こえてきました。

「ねえ、私、好きな人できたんだけど・・」

「えっ!　そうなん!! 男の子? 女の子? どっち?・・・」

何気ない会話でした。でも、しっかりと心に響きました。

二人のゴローさん

「*ゴローさん*と聞いて、誰を連想されますか。」生まれた年齢や環境によって人それぞれだと思いますが、職場で質問すると、野口五郎や、稲垣吾郎といった大物タレントが出てきます。

私はと言うと、人生（やや大げさか?）において、二人の*ゴローさん*に影響を受けてきた気がします。一人目は、黒板五郎。氏名だけで分かった方は、相当のファンではないでしょうか。そうです、あの北海道富良野を舞台にしたテレビドラマ『北の国から』の五郎さんです。

機会ある度に、再放送やDVDで何度も見てきましたが、あのさだまさしの「あーあー♪」から始まる冒頭の曲を聴くだけで、当時リアルにTVを見ていた時代にタイムスリップできます。当時は中学生で、五郎さん（一家の父）がどんな気持ちでセリフを語っていたか、ついぞわかりませんでしたが、今あらためて鑑賞すると、彼の気持ちが痛いほどわかるシーンが数多くあります。例えば息子の純（吉岡秀隆）との語らいの中でのセリフ。

五郎　「悪口ってやつはな、いわれている方がずっと楽なもンだ。
いってる人間のほうが傷つく」

純　　「ーーー」

五郎　「被害者と加害者と比較したらな、被害者でいるほうがずっと気楽だ。加害者になったらしんどいもンだ。だから悪口はいわンほうがいい」

父親の悪口を言ってまわる村人に憤慨する息子・純を、父親・五郎がなだめて語るセリフです。・・かっこよくないですか!! この言葉!!　（『北の国から　黒板五郎の言葉』幻冬舎）より

二人目の*ゴローさん*は、現在映画も大ヒットしている『孤独のグルメ』（原作・久住昌之、画・谷口ジロー）の主人公、井之頭五郎（松重豊）です。個人で輸入雑貨商を営む井之頭五郎が営業先や出張先で見つけた食事処に立ち寄り、自分の心に問いかけながら、食べたいものを自由に食すドキュメンタリードラマですが、ここにも数々の名言があります。

＝ モノを食べる時はね、誰にも邪魔されず　自由で　なんというか
救われてなきゃあダメなんだ ＝

単におじさんが一人でごはんを食べているドラマといえばそうなのですが、なぜか癒される。
以上、わたしのゴローさん話でした。

生徒の名言

先生、最近ボランティアに飢えてます。
何か地域ボランティアないですかねー。（1年）